

# 1 学期終業式

令和 6 年 7 月 1 9 日

1 学期の終業式を迎えました。令和 6 年度の 1 学期は、各学年ともどの生徒も、それぞれよく努力し、今年度のいいスタートを切ってくれたと思っています。

式後に、部活動の表彰伝達を行いました。入賞した部だけでなく、どの部も本当によく努力し、大会などで全力を尽くしました。心から賛辞を贈りたいと思います。

その後には、生徒会の新本部役員の認証式も行いました。皆、気の引き締まった良い顔をしていました。今後、生徒会活動を思い切って推進してもらいたいと思います。

そして、前本部役員の皆さん、学校と生徒全員のことを常に考え、地道な活動を重ねながらも、行事等では明るく盛り上げてくれました。皆が感謝していますよ。本当にありがとう。

最後に、生徒指導部長の先生が述べられた話のいくつかを載せておきますので、留意しながら、よい夏休みを送り、2 学期につなげていきましょう。

- ・ スマホ、タブレットの使い方をよく考えよう。歩きスマホ、自転車に乗りながらの操作等が絶対にならないように。そして、校内では学習や部活動に有効活用しよう。
- ・ 自転車の乗車マナーを考えよう。特に朝の通学時は、混雑するので、事故に遭わぬよう、地域に迷惑をかけないように、気をつけよう。
- ・ 夏休みは規則正しく、学習や部活動に取り組もう。
- ・ 事故や事件に巻き込まれないよう、何かあれば学校にも連絡をすること。



## 1 学期終業式 式辞

「日常生活でいい判断ができないやつに、グラウンドでいい判断ができるはずがない。」

平尾誠二さんの言葉です。

京都出身で中学からラグビーを始め、高校は名門校を断って、京都の伏見工業高校に入学し、キャプテンとして全国優勝を果たす。同志社大学では大学選手権 3 連覇。その後、神戸製鋼に入って、日本選手権 7 連覇。ラグビーワールドカップにも出場したし、日本代表監督にもなった人。病気で 2016 年（平成 28 年）に亡くなられた。ミスターラグビーと言われている人です。

私は、どういう状況で語られた言葉かは知りません。しかし、正しいことをまさに言い当てた名言だと思います。

この言葉を、私はこう解釈しています。

グラウンド、つまりスポーツの試合の場は、緊張を強いられる。そして対戦相手選手がいる。ミスをするとう方に迷惑をかける。応援してくれている観客がいる。敵の応援もある。平常心を保つことが難しい場面がある。練習以上に速さと、強さも求められる場面がある。その中で、ベストの判断が求められる。瞬時の判断の連続して行いながら、個人競技であれば自分の力で勝利を目指して、チーム競技であれば仲間とも協力して勝利を目指していく。明らかに、日常よりも、濃密な時間の中で、判断し続ける。

これが、急に試合中にやろうとしてできるのか？ スポーツの場面だけしようと思ってもできるのか？「できるわけがない」という意味で解釈しています。

運動部ではない人、文化部の人は、自分が舞台に立つとき、作品を作る時などに置き換えて考えてくださいね。

たしかに、試合や大会など、大きな舞台は、日頃できない経験ができ、大きな糧を得ることができるチャンスです。しかし、土台になるのは日々の日常生活です。日常で色々なことを経験して人は成長します。また、その際全力で真剣にやらないと成長しないことも皆知っているはずですが。

日常生活をまずしっかりと送る。日々の色々な自分のすべきことに対して真剣に取り組む。その上で、よい判断をし続ける。そのことが、スポーツをする人にとっても、音楽など文化活動をしている人にとっても、特にそういう活動をしていない人にとっても、大事なことです。日常でよく努力し、自分を成長させていけば、非日常でもそれは必ず生きてきます。例えば、これから3年生が臨む就職試験、進学試験もそうです。

部活動の顧問の先生から「学業も含めて日常生活をきちんとしなさい」と言われたことがあると思いますが、それは本当にそのとおりなのです。勉強、行事、家での生活はいい加減な人が、スポーツだけ上達するはずはないのです。

明日から夏休みです。授業がある日よりも、自分でスケジュールを決めて、生活上の時間割を決めて、やるべきことを決めて充実した日々を送ることが求められます。自分の意志で、良い判断をして、勉強に、部活動に、家での生活に、そして休業中にしかできないビッグチャレンジに、努力して取り組んでください。そして、その中でいい判断をするよう心掛けてください。

良い判断を求められる場面はたくさんあります。

例えば、トラブルにあった時、友人関係ともめた時、無理難題、新しい局面に出会った時、自分の頭で考え、冷静にベストだと思う対応をする。感情に流されず、周りのことも考え判断をする。それは、きっとスポーツで言うチームプレーにもつながるはずです。

私は長く部活動の顧問をやってきましたので、部員のグラウンドの様子を見れば、その人の日常生活を想像することができる気がします。

また、普段の様子を見ればその人のグラウンドでの様子も想像できる。例えば、勉強から逃げている人は、部活動の試合でも苦手な場面から逃げろんだらうなと思います。

日常とグラウンド、日常と発表の舞台、日常と非日常は、分けられない。連続している。

日常の姿がグラウンドで現れる自分の姿、グラウンドの姿が日常での自分のありようです。

高校時代からトップを走り、日本のラグビー界をけん引し、引退してからもラグビーのため、社会のために活動し続けた平尾さんがいうからこそ、説得力がある。

君たちは、この言葉から何を学びますか？

私も平尾さんの言葉から考えさせられることはたくさんあります。

最後にもうひとつ、平尾さんの言葉を紹介します。

**「時間って命の一部なんです。今の時間を大事にできない人は、未来の時間もきっと大事にはできない。」** 平尾誠二

この言葉も色々な示唆を秘めています。先ほどの言葉と共通点もあると思います。

この言葉については、各自で、解釈してみてください。

ただ、一言だけ言わせてもらおうと、平尾さんは最初に言ったように2016年に亡くられました。53歳でした。53歳という若さで亡くなった平尾さんの言葉だからこそ、余計に心にしみる。

今の時間を大切にしよう。そして、この「時間」というところに「自分」という言葉を重ねてみてください。

今の自分がすべきことを大事に、そして、今の自分の心と体を大事に、というように読めます。

この夏、事故、事件等に巻き込まれることがないように、良い判断をしながら、よい夏休みを送ってください。

2学期の最初、成長した元気な顔を見られることを楽しみにしています。